

東北海区沿岸水温予報 (2014年)

海域	経過 (12~1月)	現況 (1月下旬~ 2月上旬)	見通し (2~4月)	見通しの背景	特異現象 (漁海況)
三陸北部 (青森県太平洋沿岸; 青森水総研発表)	12月の津軽暖流の各層最高水温は0m、50m、100mの各層共に「やや高い」。水塊深度は、「はなはだ浅い」。張り出し位置は「やや西偏」。 沿岸定置水温は、11月、12月は「やや低め」。	沿岸定置水温は、やや低めに推移している。	沿岸水温は「やや低め」で推移する。	親潮が本県沖に幅広く分布。沿岸定置水温は「やや低め」で推移。2月の日本海観測は、0m、50m、100mの各層最高水温は「やや低め」。流幅は観測範囲より広く、水塊深度は「はなはだ深く」、北上流量は「はなはだ弱め」、勢力は「はなはだ強め」。	特になし。
三陸中部 (岩手県沿岸; 岩手水セ発表)	【12月】 表面水温は、距岸10海里内は「やや低め」。距岸10海里以東は、黒崎沖合50海里付近と県南部沖合20~50海里が「やや高い」のほかが概ね「やや低め」。100m深水温は、距岸10海里内は県北部から県中部の10海里沖合が「やや低い」と「極めて低い」、県中部が「やや高い」。距岸10海里以東は、県南部沖合20~50海里が「やや高い」のほかが概ね「やや低め」。 【1月】 表面水温は、距岸10海里内は「県北部から県中部にかけて「やや低め」のほかが「やや低め」。距岸10海里以東はトドヶ崎沖県中部以南が「やや高い」~「高い」のほかが「やや低め」。 100m深水温は、距岸10海里内は県北部が「やや低め」、県中部以南が「やや低い」。距岸10海里以東は、県中部が「やや低め」に対して県南部沖合が「やや高い」。	【2月】 表面水温は、距岸10海里内は「やや高い」~「やや低め」。距岸10海里以東は「やや高い」~「高い」。 100m深水温は、距岸10海里内は県北部が「やや低め」のほかが「やや高い」。距岸10海里以東は、「やや高い」~「高い」。	【3月】 「やや低め」と予測。	農林水産省「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」において開発した統計的予測モデルによる。	
三陸南部 (宮城県沿岸; 宮城水セ発表)	<12月> 『表面水温は142° 30' Eより西側で「やや低め」、東側で高め、100m深では全体的に1~4°C高くなっていた。』 【表面水温】 本県沿岸海域(142° 30' E以西)の表面水温は12~15°C台となり、平年並みもしくは1~2°C低くなった。一方、沖合海域(142° 30' E以東)の表面水温は14~16°C台となり、平年より1~2°C高くなった。 【100m深水温】 100m深水温については13~16°C台となっており、平年より1~4°C高く、38° N、38° 30' Nラインの沖合海域(142° 30' E以東)では暖水渦により平年よりも3~4°C高くなった。 <1月> 『38° 50' N、142° 30' E付近の表面に暖水が波及し、平年より3°C高め、100m深では38° N、142° 30' E付近で平年より2°C低めとなった。』 【表面水温】 本県の沿岸から沖合の表面水温は7~12°C台となった。概ね平年並みだが、38° 50' Nラインの142° 30' E以西で暖水の波及が見られ、平年よりも1~3°C高くなった。 【100m深水温】 100m深水温については6~11°C台となった。概ね平年並みだが、38° Nラインの142° 30' E付近で平年よりも2°C低くなっています。	<2月> 【表面水温】 仙台湾は6~9°C台で、平年並み~低めであった。 【100m深水温】 2月の沿岸定線観測の中止に伴い、情報なし。	<3月> 38° 50' Nライン(気仙沼沖)、38° 30' Nライン(雄勝沖)は142° 10' E以西は平年並み、142° 30' E以東はやや高めで推移する。 38° Nライン(亶理沖)は平年並みで推移する。 <4月> 38° 50' Nライン(気仙沼沖)は平年並みで推移する。 38° 30' Nライン(雄勝沖)は142° 10' E以西は平年並み、142° 30' E以東はやや高めで推移する。 38° Nライン(亶理沖)は141° 50' E以西は平年並み、142° 10' E以東はやや高めで推移する。	水温経験的予測システムの主成分スコア自己回帰モデルによる予測。	
常磐北部 (福島県沿岸; 福島水試発表)	表層では12月~1月とも「やや低め」で推移した。100m深では12月~1月とも「やや低め」で推移した。海域別にみると、1月の双葉海域が表層、100m深とも「やや低め」であったが、12月の双葉海域、いわき、相馬海域は全て「やや低め」であった。	2月の観測は一部(塩屋埼定線の沿岸寄り的一部)について実施しているが、表層は「やや低め」、100m深は「やや低め」であった。	「やや低め」~「やや高め」で推移する。	1月に海洋観測で得た水温を用い、本県海域(沿岸~50海里沖)を3つの海域に分け、3~4月についての自己回帰分析を行った結果、全ての海域で「やや低め」となった。一方、気象庁の1カ月予報(2/11~3/10)において、親潮先端は40.5N、143E付近及び38N、146E、面積は平年並みから平年より大きく推移すると予測されている。また、FRA-ROMSによる3月中旬までの予報では、黒潮流軸は平年並み~やや南偏するが、本県沿岸には黒潮系暖水が波及し、親潮系冷水の波及は沖合にとどまることが示唆されている。これらの結果を合わせ、平年並み~やや高めで予測した。	いわき市小名浜の定地水温は2月9日~20日に平年差1.9~3.3°C低めで推移している。調査船「拓水」によるコウナゴ採捕調査での、いわき、相馬海域における採捕数は2006~2013年の平均値より多くなっている。

常磐南部～鹿島灘 (茨城県沿岸；茨城水試発表)	12月上旬は、暖水波及の影響が11月よりも弱まり、表層は「 平年並み～高め 」、下層は「 平年並み 」であった。 1月上旬は、表層は暖水波及の影響により「 平年並み～高め 」、下層は東経141° 30' 以西で「 平年並み 」、東経141° 30' 以東の北部では冷水南下の影響により「 低め基調 」、南部では黒潮流路に位置したため「 高め基調 」であった。	2月上旬は、表層・下層とも広い海域で「 平年並み 」となったが、沿岸では真潮（北向きの潮流）の影響により「 やや高め 」、黒潮流路が位置する県南部沖合で「 高め 」、鹿島沖の一部海域では「 低め 」であった。	「 低め基調 」で推移するが、一時的に暖水が波及し「 高め 」となる。	①2月中旬になると、仙台湾～常磐北部海域から冷水（表層8～10℃）の南下がみられ、また日立市会瀬沖の観測ブイでは、2月9日に最大2.5ノットの逆潮（南向きの潮流）が観測された。このため、県北～県中部を中心に沿岸域の水環境は「 低め 」になった。 ②気象庁等によれば、親潮第1分枝は宮城県金華山から大きく離岸した沖合（145° 30' E付近）に位置している。親潮の勢力は比較的強い状態で推移し、第1分枝は今後南下するものとみられる。 ③黒潮蛇行部の東進により、本県沖合で黒潮の流路変動が2～3回起きることが予測され、本県沿岸に暖水が波及する可能性がある。	特になし。
----------------------------	--	--	---	--	-------

各階級の水温平年偏差の範囲

階級区分（出現率）	三陸北部	三陸中部		三陸南部	常磐北部	常磐南部～鹿島灘
		距岸10海里内	距岸10～70海里			
極めて高い (2.5%)	+2.4℃～	+4.0℃～	+6.0℃～	+2.4℃～	+4.0℃～	+4.0℃～
高い (7.5%)	+1.6～+2.3℃	+2.5～+3.9℃	+4.0～+5.9℃	+1.6～+2.3℃	+2.5～+3.9℃	+2.5～+3.9℃
やや高い (20%)	+0.7～+1.5℃	+1.0～+2.4℃	+1.5～+3.9℃	+0.7～+1.5℃	+1.0～+2.4℃	+1.0～+2.4℃
平年並み (40%)	+0.6～-0.6℃	+0.9～-0.9℃	+1.4～-1.4℃	+0.6～-0.6℃	+0.9～-0.9℃	+0.9～-0.9℃
やや低い (20%)	-0.7～-1.5℃	-1.0～-2.4℃	-1.5～-3.9℃	-0.7～-1.5℃	-1.0～-2.4℃	-1.0～-2.4℃
低い (7.5%)	-1.6～-2.3℃	-2.5～-3.9℃	-4.0～-5.9℃	-1.6～-2.3℃	-2.5～-3.9℃	-2.5～-3.9℃
極めて低い (2.5%)	-2.4℃～	-4.0℃～	-6.0℃～	-2.4℃～	-4.0℃～	-4.0℃～